

2026 年 9 月 17 日
愛知県美術館プレスリリース

愛知県美術館 きむらていぞう 木村定三コレクション

どうばんきょう 最古級の《銅板経》初公開！

展示期間：令和 8 年 10 月 30 日（金）—12 月 13 日（日）



愛知県美術館では、美術品収集家の故・木村定三氏と御遺族から寄贈された 3,309 件の作品・資料（木村定三コレクション）の調査・公開を進めています。

同コレクションに永久 3 年（1115）の銘文が記載された《銅板経》があり、2006 年に行った館外専門家による仮調査において「重要文化財級の品か」と評価されていました。このたび当館学芸員が改めて調査を始めたところ、本品の銘文は竹内理三『平安遺文—金石文編—』（1960 年刊行）に載っており、制作年が分かる銅板経の中で最古の例として存在は知られていましたが、所在不明とされてきたものであることが判明しました。

本品は歴史的価値が高いばかりでなく、制作技法が他の銅板経とは全く異なり、また現存する 4 枚のうち 1 枚には半浮き彫り状の仏画が表され、絵画史・工芸史・書跡史の上でも貴重と考えられます。

今後詳しい調査や分析などを経て保存・修復処置を施す予定ですが、現状態を広くご覧いただくため、特集展示「木村定三コレクション 仏教美術の名品」の中で初公開いたします。

●「銅板経」とは…

平安時代後期の末法思想（釈迦の死後、次第に仏法が衰え戦乱の世になるとする考え方）を背景に、経典を遙か未来まで保存するため地中に埋める「埋経」^{まいきょう}が盛んに行われました。多くは紙に書写した経巻を銅製の経筒^{きょうづつ}、更に陶製の外容器^{がいようき}に納める形態ですが、紙よりも丈夫な銅板に経文^{きんぶん}を刻んだ「銅板経」も数例が知られています。奈良県大峯山頂遺跡出土の銅板経残欠 8 枚分や、奈良県金峯山経塚出土品^{きんぶせん}、元永 2 年（1119）かとされる京都仁和寺境内出土の 120 枚はいずれも一括で重要文化財に、福岡県の求菩提山出土で康治元年（1142）銘のある銅板経 33 枚及び銅筥^{どうぼこ}は国宝に指定されています。

●作品詳細

《銅板經》 愛知県美術館 木村定三コレクション M992

平安時代後期：永久3年（1115） 4枚 銅板製、打出し他

①19.5×32.3 cm （胎藏界大日如来図、その左右に五輪塔と火焰宝珠、蓮華ほか）

※紙本の経巻の表紙裏に描かれることがある「見返し絵」に相当すると考えられます。

②19.2×31.2 cm （『金光明最勝王經』卷第八から「王法正論品」の冒頭）

③19.2×30.2 cm （②の続き）

④18.9×32.5 cm （前半に「王法正論品」の末尾、後半に銘文）

※③と④の間の経文には、この銅板経6枚分の抜けがあり、当初は10枚組であったか。

②



●銘文



④の左半分に次の銘文が書かれています。

「金光明最勝王經王法正論品

永久三年年次乙未五月二十八日爲法界

衆生平等利益也奉刻寫

菩提山中尾住僧慶俊」

（この金光明最勝王經王法正論品は、永久三年乙未の年（1115）5月28日に、この世に生きる全ての者へ平等にご利益があるようにと刻写し奉った。菩提山中尾の住僧、慶俊）

※この銘文は、竹内理三『平安遺文—金石文編—』（1960年）に掲載され、関秀夫『経塚遺文』（1985年）にも転載。東京文化財研究所のデータベースでは「所在不明」とされています。

●形状の特殊性

銅板経の多くは、21×18 cmほどの正方形に近い色紙型^{しきしがた}で、厚さ約2～3mmの銅板の両面に鑿で文字が刻みつけられていますが、この銅板経は縦が約19 cm前後、横が30 cm余りという横幅が異例に大きな形状です。

●技法について

- ・厚さは0.数 mm と非常に薄く、片面のみに文字や絵が表されています。
- ・文字や絵は彫り刻まれているのではなく、片面から反対面へと押し出されており、表から見ると文字は凹である一方、行間および天地の罫線は凸となっています。また絵の曲線や点線は凹ですが、大日如来像左下の五輪塔は裏から表へとわずかに盛り上がっています。
- ・文字も絵も、裏面の方がくっきりとしています。



(表)



(裏)

●これらの特徴から、本銅板経の制作には「^{おしだしがつ}押出仏（または^{うちだしがつ}打出仏）」のような技法が用いられているかと推察されます。これは、^{ろうがた}蠟型などから鑄造した丈夫な金属型の上に薄い銅板を乗せて、木槌で叩いたり、木や竹・鹿角製などのたがねで打ち出したりして、型の形を銅板に写し取る技法です。手間と技術を要しますが、同じ姿の銅板経を複数作ることも可能です。

●書体について

本銅板経の文字(漢字)は毛筆の線の肥瘦を再現した形をしており、楷書体と行書体を基本としながら、「正」の字は草書体で書かれています。また経文1行の文字数は原則17字のところ、②は14、③は12、④は11～15と自由さがあり、書跡としても高い鑑賞性を有しています。筆跡の特徴も研究対象となり得るでしょう。

●出土地および願主、埋経目的の謎

この銅板経の出土地は不明ですが、銘文にある「菩提山中尾住僧慶俊」から、福岡県の「求菩提山」や、同じく福岡県の^{みやこぐん}京都郡「^{ほうしやくじ}鷲尾山菩提院宝積寺」ではないかとみる説があります。ただしいずれも銅板経の出土例が多い九州北東部を前提とした考察であり、「菩提山」の名称と一致はしていません。他方で奈良県奈良市に「菩提山^{しょうりやくじ}正暦寺」があり、同寺には本銅板経と同時代に「慶俊」という僧がいました。この慶俊は楽器^{しょう}「笙」

の名工としても知られ、白河法皇（1053-1129）が元永元年（1118）の熊野参詣に際して、慶俊が新調した笙を宝物として奉納しています。

また一般に埋納される経典は、法華経や華嚴経、阿弥陀経、観音経などが多く、「金光明最勝王経」は珍しい部類に入ります。同経は聖武天皇が全国の国分寺の塔に安置したように、護国経典の代表であり、全十巻の中でもこの銅板経に記された「王法正論品」は、王が正しい法によって国を治めれば「法王」と称号され世界に知れわたるだろう、と釈迦が説法する章です。慶俊はなぜこの章を選んだのでしょうか。

今後行う多角的な調査により、こうした謎が解明されることも期待されます。

【展示情報】

展覧会名	2026 年度第 3 期コレクション展 特集展示「木村定三コレクション 仏教美術の名品」
会 期	2026 年 10 月 30 日（金）— 12 月 13 日（日）
開館時間	10:00-17:00 金曜日は 20:00 まで（入場は閉館の 30 分前まで）
休 館 日	11 月 2 日（月）、11 月 16 日（月）、11 月 30 日（月）、12 月 7 日（月）
会 場	愛知県美術館 展示室 7・8 および前室 2 （コレクション展内）[愛知芸術文化センター10 階] 〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 美術館ウェブサイト https://apmoa.museum/
観覧料	一般 500（400）円、大学生 300（240）円、高校生以下無料 ※企画展（「ビゲロー 幻のコレクションと近代日本画の夜明け」）チケットをお持ちの方は、付属するコレクション展チケットにてご観覧いただけます。 ※（ ）内は 20 名以上の団体料金です。

●木村定三コレクションとは…

名古屋の美術収集家・木村定三氏とその御遺族から寄贈された 3,309 件という作品数は、愛知県美術館の全所蔵品の 3 分の 1 近くにのぼります。木村氏の卓越した審美眼によるこのコレクションは、与謝蕪村や浦上玉堂などの文人画をはじめとする江戸絵画、木村氏と直接の交流があった熊谷守一や須田剋太などの近現代の作品を核としながら、日本と東アジアを主とする紀元前からの考古遺物や仏教美術、陶磁、金工、漆工などの工芸作品まで広範囲にわたります。

●展示の見どころ「木村定三コレクション 仏教美術の名品」

木村定三コレクションは仏教美術においても質・量ともに充実しており、近年では 2015 年度に「彫刻」、2016 年度に「絵画と工芸」、2020 年度に「工芸作品を主として」、2023 年度に「絵画を主として」と分けて、いずれも当館の展示室 8 ひと部屋で展示して参りました。今回は展示スペースを二部屋余りに拡張し、全分野にわたる仏教美術の粋をご鑑賞いただきます。

中国の北魏時代（5 世紀）から日本の室町・桃山時代（16 世紀）に至る仏像・仏画や、多様な密教法具、奈良・平安時代に書写された美しい経典など。更に 2010 年に胎内から仏画断片が発見された平安時代の木造不動明王像や、2020 年に愛知県文化財に指定された《黒漆厨子 千体観音図貼付》も展示します。

また《銅板経》にあわせて、経塚出土の銅経筒や陶製外容器、粘土板に経文を刻んで焼き上げた「瓦経」もご紹介します。銅経筒の 1 点から取り出された紙本経の残欠も初公開となります。

〈同時開催〉企画展「没後 100 年記念 ビゲロー 幻のコレクションと近代日本画の夜明け
——日本美術に魅せられたボストン人——」

「木村定三コレクション 仏教美術の名品」 広報用画像

1.



2.



3-1.



3-2.



4.



5.



1. 《銅板經》 平安時代後期：永久 3 年（1115）、4 枚から「見返し絵」、銅板製、打出し他 愛知県美術館（木村定三コレクション）
2. 《銅板經》 平安時代後期：永久 3 年（1115）、4 枚から「巻頭」、銅版製打出し他 愛知県美術館（木村定三コレクション）
- 3-1. 《黒漆厨子 千体観音図貼付》 鎌倉時代－南北朝時代（14 世紀）、木製漆塗 金具：銅・鍛造、鍍金 愛知県指定文化財 愛知県美術館（木村定三コレクション）
- 3-2. 《黒漆厨子内千体観音図（部分）》 絹本着色
4. 《不動明王立像》 平安時代（12 世紀）、木造彩色截金 愛知県美術館（木村定三コレクション）
5. 《愛染明王像》 鎌倉時代－南北朝時代（14 世紀）、絹本着色 愛知県美術館（木村定三コレクション）

「木村定三コレクション 仏教美術の名品」広報用画像申込書

※ご掲載にあたっての注意事項

- ・ 広報用画像の使用は本展の紹介を目的としたものに限りさせていただきます。
- ・ ご使用の際は、展覧会名、会期、会場（「2026 年度第 3 期コレクション展 特集展示 木村定三コレクション 仏教美術の名品」、2026 年 10 月 30 日（金） - 12 月 13 日（日）、愛知県美術館）を明記してください。
- ・ ご使用の際はキャプション情報（作家名、作品名、制作年等）を全てご掲載ください。
- ・ 画像は全て全図でご使用ください。トリミング、縦横比の変更、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・ イベント情報の確認のため、校正原稿を以下の問い合わせ先に FAX またはメールでお送りください。
- ・ 掲載誌（紙）、録画 DVD 等を事務局宛に 1 部ご惠贈願います。ウェブ媒体の場合は掲載 URL をお知らせください。

ご希望の画像番号： _____

媒 体 名： _____

ジ ャ ン ル： _____

掲載・放送予定日： _____

貴 社 名： _____

ご 担 当 者 名： _____

E - m a i l： _____

所 在 地：〒 _____

電 話： _____

問い合わせ先／校正原稿等の送付先

広報に関すること（担当：中村、神谷）

展覧会に関すること（担当：深山）

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

TEL: 052-971-5511（代）

FAX: 052-971-5617

E-mail: press-apmoa@apm.or.jp

（※本年 4 月 1 日よりメールアドレスを変更しました）